

## 谷口先生講演会アンケートまとめ

\*このまとめは、当日の参加者59名中、43名の方から得られたものである。

(回収率：73%)

\*自由記述については主なものを記載。

### 1 参加者属性

- |             |   |     |          |
|-------------|---|-----|----------|
| (1) 相談支援事業者 | : | 6名  |          |
| (2) 居宅介護事業者 | : | 8名  |          |
| (3) 施設職員    | : | 14名 |          |
| (4) 自治体職員   | : | 4名  |          |
| (5) その他     | : | 12名 | *重複回答あり。 |

### 2 谷口先生の講演会はいかがでしたか。地域・福祉・連携等について、感想をお願いします。

(全体的におもしろかった・よかった・分かりやすかった等)

- ・大変、有意義な講演会でした。この続きをまた企画して頂けたらと思います。
- ・時間があればもっと詳しく聞きたい話がたくさんありました。
- ・ユーモアを交えながら、とても分かりやすく説明していただいたと思います。地域全体としてのかかわり方をもっときめ細かいつながりにするべき。
- ・ご自身の経験も交えての話は楽しくもあり、聞きやすかったです。

(施策・制度等について理解が進んだ等)

- ・国の施策や現状等分かりやすくとても理解できました。
- ・新しい情報を聞く機会として、また参加したいと思いました。
- ・障がい者自立支援法については、学ぶ機会が少ないため勉強になりました。制度について考えさせられ、興味も出てきた。
- ・通常入らないような情報まで提供して下さいありがとうございます。
- ・福祉自体が地域にむいて、種まきの状況である事を感じました。
- ・法律、制度自体がわかりづらい。
- ・先生の話は実践に基づく理論、政策の理想と現実などすごく心に迫る内容でした。
- ・GH、CHのお試し利用については、2/20発表の内容をみて興味を持っていたので良い話がきけました。
- ・サービスがあつての利用となっているため、サービス量の確保が切実ですね。

(時間が足りなかった・もう少し聞きたかった等)

- ・ 施設から地域への話については少し時間が足りないと感じました。
- ・ 相談支援、自立支援協議会の話をもっと聞きたかったです。
- ・ 新報酬単価の説明がもう少しききたかった。
- ・ 制度の話が主で、自立支援協議会が元気になる話はあまりなかったと感じた。

(連携やネットワークの大切さ・必要性を感じた等)

- ・ 1つの施設でのかかえ込みではなく、連携の大切さがよく分かりました。
- ・ ネットワークをはっていくこと、人のつながりを大切にしていきたいと感じました。
- ・ 世帯同居で高齢者と障がい者（児）との生活を支援していく上で、これからの連携となるべくきっかけを聞くことが出来た。
- ・ 利用者さんからの信頼を更に得るために研鑽や工夫を重ねていきたいと思いました。

(その他)

- ・ 当事者をおきざりにした福祉はありえない。
- ・ 谷口先生のような学識から行政の方はもっと学んでほしい。

### 3 今後どのような内容の講演会を希望されますか。

(相談支援事業について)

- ・ 相談技術向上につながる内容。相談支援事業所の活動と役割について。
- ・ 春日井市における相談支援機関の相談件数等の実情について。

(制度に関するもの等)

- ・ 分かりやすい自立支援法の制度、法律等の講演会。
- ・ 就労関係。
- ・ 国・制度の動き、及び実態。
- ・ 地域で暮らす際の問題点と制度の課題。

(支援方法について等)

- ・ 高齢者を介護するご家族（精神疾患のある）の支援について。
- ・ 事件にまきこまれないための支援方法
- ・ 情報の共有化を図ることのできる内容。
- ・ モデルケースのようなどころの実践報告。
- ・ ライフステージに合った必要な支援方法のあり方。

(その他)

- ・ 障がい児の生と性。
- ・ 経験談。障がいのある方の精神面などの話。
- ・ 当事者に関わる歴史。
- ・ 事業所の重要性は理解できるがそれを今後どう展開 (?) するの。

4 相談支援事業所に期待することはありますか？

- ・ 情報の提供。関係機関との連携（ネットワーク作り）。
- ・ 地域で暮らす生活を支える拠点そして窓口として！一人一人のプランを作っていく窓として。
- ・ 利用者のためになるメリットのある支援を希望する。
- ・ 信頼度を高め、障がい者の立場に合った相談事業の実施。もっと勉強を！
- ・ 将来を見据えてのサービスの組み立て。
- ・ 高齢者＋障がい者世帯の介入に困るケースが多く、一緒の関わりに期待。
- ・ 単なるサービス調整でなく、その人の自立を支援することに期待。
- ・ 相談から政策を動かすような大きな力を持ってほしい。
- ・ 障がい者の理解、啓発活動、福祉サービス情報の「見える化」を期待。
- ・ 厚労省も重要視している「児童部会」の立ち上げ。ライフステージに合った支援や量の確保。